

『第10回むつき庵はいせつケア実践報告会』ご参加ありがとうございました



12月1日京都社会福祉会館4階ホールにて、「第10回むつき庵はいせつケア実践報告会」を開催いたしました。

参加者は総勢198名の方々がお越しくださいました。

はいせつケア大賞には「あなたの笑顔が見たいから～スタンディングリフトを使った排泄ケアへの取り組み～」と題して発表されました特別養護老人ホーム神の園の木村友紀さん・美濃部友花さんが受賞されました。発表されました8組9名のいずれの実践報告も素晴らしく、回を重ねるごとに発表される内容のレベルが向上していますことをあらためて実感しました。ご講演をいただきました大堀具視氏は「『動き出しは本人からの介護実践』-利用者の思いに気づく、力を活かす-」と題して、多くの具体的事例を映像にてご紹介しながら、ご講演されました。「ひとの出来るを信じて、動き出しを待つこと」とのお話に、参加者は大きな感銘を与えていただきました。



2019年11月10日～11日

おむつフッター倶楽部

安曇野・信濃大町研修ツアーを行いました。



総勢21名の方がご参加ください、二日間晴れ渡り、アルプスの山々が美しく紅葉して最高のツアーとなりました。訪問させていただきましたNPO あんしんさんでの「住み慣れたところ、住み慣れた家で、生き生きと輝いていきたい」人と人との支え合いの循環が、あんしんして暮らせる里をつくる、そんな取り組みに大きな学びをいただきました。また、モリトーさんでは4つのグループに分かれて様々なリフトの体験をさせていただきました。特に水着をつけての入浴体験はなかなかできない体験でした。



リレートーク⑪ ケアショップハル 高延 政之さん

私が、おむつフッターさんと初めて出会ったのは、約10年前になります。

おむつフッターチーム関西の皆さんが、地元大阪府阪南市の福祉フェアでおむつのファッションショーをして下さる事になり、行政の方から一緒にショーに出て欲しいとお声がかかった事が最初でした。福祉用具を取り扱う事業所として、おむつの種類や排泄の大切さは理解していましたが、福祉フェアで、おむつに対する考え方が一変し、先輩方の研修に同行させて頂く度に、これは、地域の方々に発信していかないと！排泄やおむつの知識を身に付け、先輩方のように排泄＝暗いイメージではなく、明るく前向きに大切な事として伝えないと！と思い、出前研修や利用者様への訪問を重ねるようになりました。むつき庵の皆さん、諸先輩方から沢山の学びをいただき、今では、実践報告会のスタッフ、バリアフリー展でのバックヤードなど、イベントの裏方を担当できるまで成長させていただきました。

私は、イベントを通じて、イベントに関わってくれる方をどんどん巻き込み、これからもむつき庵のイベントを盛り上げていく、盛り上げてくれる仲間を増やす事が、自分の役割だと思っています。おむつフッターの皆さん！イベント盛り上げ隊の仲間になりませんか！一緒に楽しく学びましょう！いつでもお気軽にお声かけください！どうぞよろしくお願いたします。

語るで きよちゃん



医師、看護師、介護福祉士などのように、それぞれの専門性が分化しているがゆえに在宅医療の際には、大切なことなのにいわば隙間が生じて、その隙間が患者の暮らしに影響を与えていることが少なくない。(中略) それぞれの専門家が自身の専門分野だけではないところにまで少し気を配るだけで、患者の状態は大きく変わる。

専門性という「点」をいくらつないでも、暮らしという「全体」にはなかなかならない。むしろ、暮らしという全体から、その人を見ていくこと、その暮らしの問題などに気づくこと、このことが重要だと痛感している。

(島崎亮司、浜田きよ子編著『在宅医療の技とこころ 在宅医療の排尿管理と排泄ケア』、南山堂、2018年、152頁)